

プールの今後のあり方について

1 目的

- 障害のある方もない方も、幼児から高齢者までが快適かつ安全安心に、年間を通して利用できるプールであることがスポーツ施設としての至上命題と捉えています。
- あわせて、上記の単一の目的だけではなく、観るスポーツ・障害者スポーツの促進、エリア一体の良好なまちづくり、災害時への円滑な対応など、複合的な取り組みを進めていきます。

2 現状と課題

- 温水プール・屋外プール・管理棟の施設・設備（劣化、動線、換気、バリアフリーなど）
- 市立体育施設敷地内における通行等の状況（駐車スペース、進入路、敷地内の生活道路）
- 周辺の状況（景観整備優先路線である市道第17号線中央通り）
- 年間利用者数 約156,000人（平成30年度）
- 使用料収入は年間2,300万円、夏期の使用料は大人200円（市民カード半額）・子ども10円
- プールのランニングコストは年間1億円、うち屋外プールに2,500万円
- 温水プールを全面貸切で開催する大会等は年4回、屋外プールも併せて使用するのは内2回
- 市内民間プール 9施設

3 今後のプールのあり方

今後のプールのあり方については、利用状況、現在及び将来にわたる財政的負担（イニシャル・ランニングコスト）と使用料収入（受益者負担）、メリットやデメリット、効果などを踏まえて総合的、俯瞰的に検討する必要性があり、主に3つの案が考えられます。

【案1：現状維持】

- *現在の温水プール・管理棟・屋外プールに保全工事を重ねながら、今後20年間（管理棟築60年）程度まで維持し、使用していきます。

【案2：温水プール・管理棟・屋外プールを解体し、建て替える。屋外プールは25m】

- *温水プールの機能向上（床面積の増）と市道第17号線の歩道の拡幅（セットバック）を行うには、現在の同規模の50mの屋外プールを敷地内に配置することが困難であるため、建て替え後の屋外プールは25mとしています。

【案3：温水プール・管理棟を解体し、建て替える。屋外プールは解体し、廃止する。】

- *温水プールの機能向上（床面積の増）、市道第17号線の歩道の拡幅（セットバック）を行っても、敷地内にさらに多目的スペースを確保し活用できます。

課題の解決へ

4 検討案とコスト、メリット・デメリット等の比較

○検討案を比較するにあたり検討材料とするため、温水プールの機能向上を図るために必要な諸施設の面積を算出し、解体・建替工事にかかるイニシャルコストを試算しました。実際に設計を経て積算したものではないため大まかな数値であることと、また、財源が確約できているものではありませんのでご注意ください。

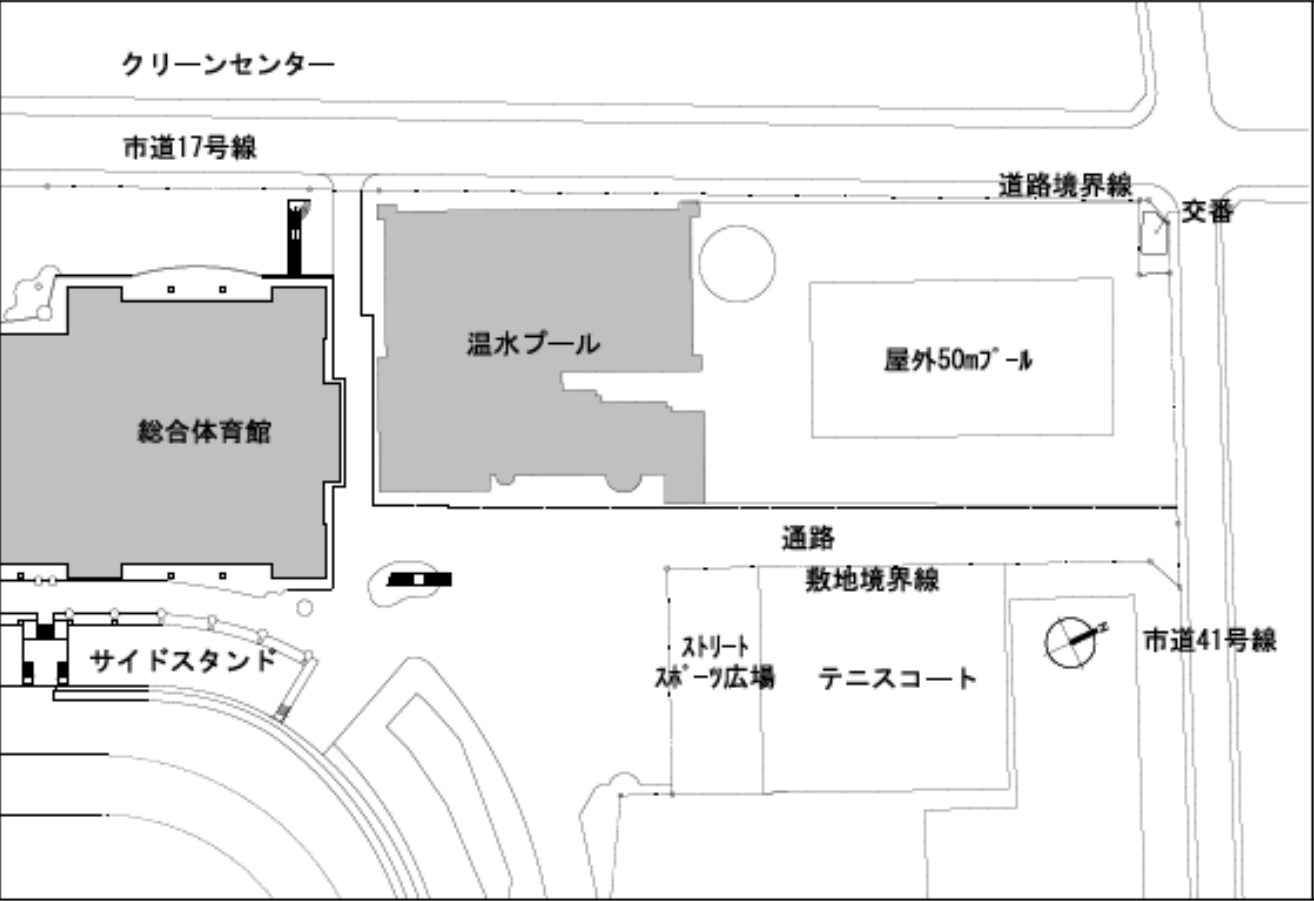
○想定されるメリット・デメリットは以下のとおりです。

プラン	イニシャルコスト・ランニングコスト	メリット	デメリット
【案1】 現状維持(20年間維持) ◆温水プール・管理棟・屋外プールに保全工事を重ねながら今後20年間(管理棟築60年)程度まで維持し使用していく。	＊保全工事 10 億円 ＊屋外プールの管理・運営 2,500 万円／年、20 年間 5 億円 計 15 億円	＊屋外プール（50m）の継続利用が可能。 ＊イニシャルコストの抑制。	＊保全工事を実施しても、換気、動線、バリアフリー等の課題は解決できない。 ＊市道第 17 号線の歩道は拡幅できない。 ＊敷地内への車両の進入路や駐車スペースが確保できない。 ＊屋外プールのランニングコストが年間 2,500 万円かかる（20 年間 5 億円）。
【案2】 解体・建替、屋外プール 25m ◆温水プール・管理棟・屋外プールを解体し、建て替える。 ◆建て替え後の屋外プールは 25mに縮小する(既存の屋外プールは 50m)。	＊解体・建替工事 30 億 6,100 万円 ＊屋外プールの管理・運営 2,500 万円／年、20 年間 5 億円 計 35 億 6,100 万円	＊屋外プール（25m）の継続利用が可能。 ＊温水プールの機能向上。 ＊敷地内への車両の進入路や駐車スペースの確保。 ＊多目的スペースの確保 ＊市道第 17 号線歩道の拡幅。	＊長水路の大会開催ができない。 ＊イニシャルコスト約 30 億 6,100 万円がかかる。 ＊屋外プールのランニングコストが年間 2,500 万円かかる（20 年間 5 億円）。
【案3】 解体・建替、屋外プール廃止 ◆温水プール・管理棟を解体し、建て替える。 ◆屋外プールは廃止する。	＊解体・建替工事 25 億 7,400 万円 25 億 7,400 万円	＊温水プールの機能向上。 ＊敷地内への車両の進入路や駐車スペースの確保。 ＊多目的スペースの確保。 ＊市道第 17 号線歩道の拡幅。 ＊市道第 17 号線・第 41 号線の隅切（交通円滑化）。 ＊屋外プールのランニングコストの皆減。 ＊スポーツ施設の集約を検討できる余地がある。	＊夏期の利用人数の減・レクリエーション機会の減 ＊長水路の大会開催ができない。 ＊イニシャルコスト約 25 億 7,400 万円がかかる。

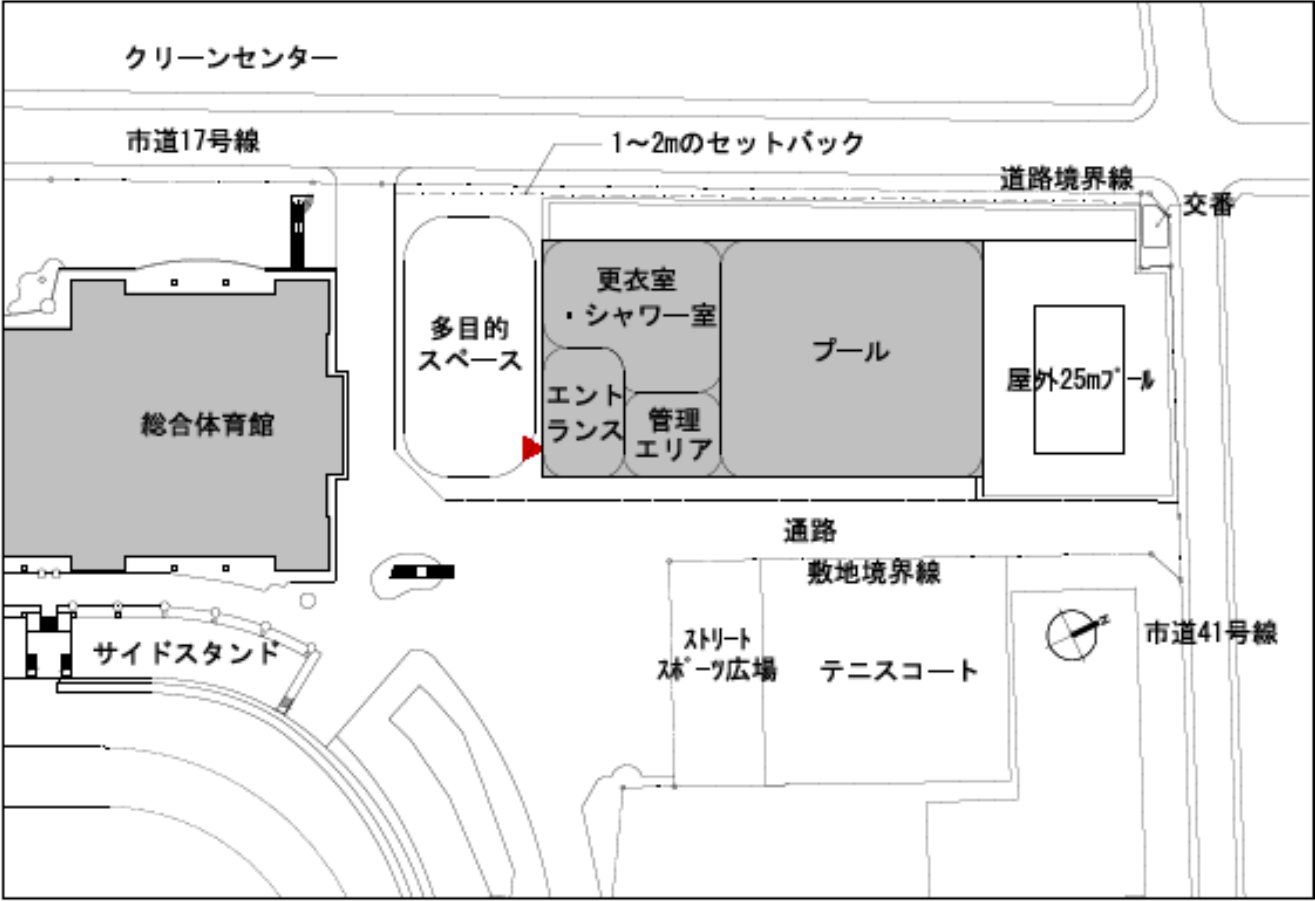
	イニシャルコスト	ランニングコスト	利便性 機能性	快適性	多様性 バリアフリー	屋内プールの充実	屋外プール (夏期)	他スポーツ等への活用	災害対応	まちづくり
【案1】 現状維持(20年間維持)	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×
【案2】 解体・建替、屋外プール 25m	×	×	○	○	○	○	△	△	○	△
【案3】 解体・建替、屋外プール廃止	△	○	○	○	○	○	×	○	○	○

配置の想定

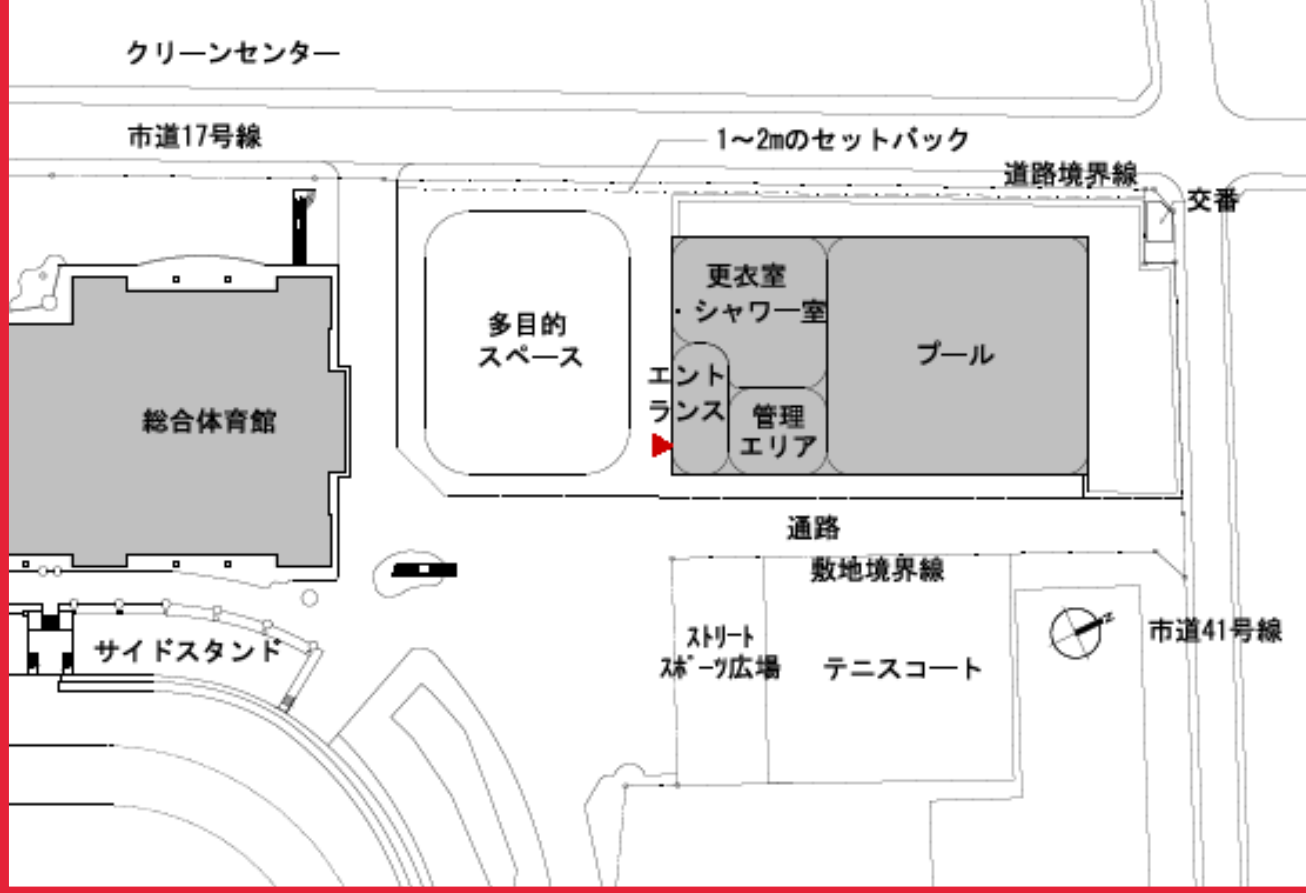
【案1】現状維持(20年間維持)



【案2】解体・建替、屋外プール25m



【案3】解体・建替、屋外プール廃止



＜参考 1＞ 温水プールの建て替えによって得られる効果

温水プールの建て替えによる機能向上	
◆アメニティの向上・衛生面の向上	◇更衣室・トイレの改善 ◇パウダールームの設置 ◇ジャグジーの設置 ◇リカバリーエリア（ホール）の拡張 ◇見学スペースの拡張
◆誰もが使いやすいバリアフリー化 * 障害のある方 * 子どもから大人まで * 親子 * 子育て世代	◇自動ドア、エレベーター、手摺の設置 ◇多目的更衣室・トイレ （LGBTQ、異性家族等の利用を含む） ◇1フロアに集約することによる移動の円滑化 ◇洋式トイレの整備 ◇おむつ替・授乳スペースの設置 ◇プールへのスロープまたは階段設置
◆競技エリアの充実と競技スポーツの促進	◇25mプールのコースの増 （現在7コース → 9コースへ増）
◆泳力や新たなニーズへの対応	
◆子どもの運動遊びの促進 親子のコミュニケーションの創出	◇未就学児等の年間利用が可能となる幼児用プールの屋内化



誰もが快適に年間を通して楽しむことができるプールへ

屋外プールを廃止による多目的スペース(空間)の創出	
多目的 スペース の創出 による ◆障害者スポーツ、 観るスポーツの促進 ◆体験イベントの開催 ◆地域のイベント、 地域スポーツへの寄与	◇大会時のチームバス及び搬出車両に対応した進入路、駐車スペースの確保、セキュリティの向上 ◇アウトドア、ニュースポーツ、障害者スポーツなどの体験イベントの実施 ◇JFL・桜まつりなどイベント・大会に連動したブース等の出店
◆競技スポーツへの活用	◇陸上競技大会等における選手待機場所の確保
◆新たなスポーツへの対応	◇潜在的な種目、新種目など、将来へ向けた競技スペースの確保
◆安全・安心な管理運営	◇救急車 滑な誘導
◆災害への円滑な対応	◇災害時の物資輸送拠点、陸上自衛隊宿泊地としての強化(進入路、駐車スペースの確保)
◆良好な歩行空間の創出	◇市道第17号線歩道の拡幅 ◇市道第17号線、市道第41号線の隅切り
◆屋外プールにかかるコストの削減	◇イニシャルコストの抑制 ◇ランニングコストの削減(年間約2,500万円)



スポーツ施設の結節点としてのスポーツの促進・交流の創出

良好なまちづくり

イニシャルコストの抑制・ランニングコストの削減